2022年9月豊洲キャンパス本部棟オープン

芝浦建築会 2022

会報

VOL. 1

https://sit-archi.com

◎芝浦建築会　会報第一号　2022年11月30日発行

芝浦建築会
2022

C O N T E N T S

会長挨拶	旧卒業生の会の活動を継承し、 卒業生の『拠り所となる』芝浦建築会の活動を目指して	切刀　強	3
理事長寄稿	新生「芝浦建築会」の会報に寄せて	鈴見　健夫	4
副会長挨拶	校友会への参加について	百瀬　和浩	5
	芝浦建築会の今後について	川口　英樹	5
旧建築会、旧建友会寄稿	旧建友会と旧建築会の合併協議から芝浦建築会誕生まで	鈴木　泉	6
	旧建友会からの継承	宮谷　敦	6
（仮題）卒業生の輪	プロフェッションを問う	片倉　隆幸	7
	仕事及び学生時代の振り返りと現況報告	浅見　勝	7
	石川洋美先生・名誉理事長の最晩年の日々	松寿　章	8
学科報告	建築学科の体制、ビジョンなどの近況報告	秋元　孝之	9
	新校舎に引っ越しして	志手　一哉	9
	PBL とコロナ禍	山代　悟	10
	2021 年度の学科の状況と学生の活躍　表 1、表 2	郷田　修身	11
	退職のご挨拶と御礼	南　一誠	13
	着任のご挨拶	小菅　瑠香	13
2022 年度 旧建築会会費納入者			14
2022 年度 旧建築会寄付者			15
会報のあり方と会費納入のお願い			16
会計報告	2021 年度　芝浦建築会会計報告　　2022 年度　芝浦建築会予算案		16
役員名簿			16
編集後記			16

会長挨拶

旧卒業生の会の活動を継承し、卒業生の『拠り所となる』芝浦建築会の活動を目指して

切刀　強（くぬぎ つよし）
1976年工学部建築学科卒

新型コロナウイルスは感染拡大の波を繰り返す中、皆様におかれましては、健康に留意しご活躍のこととお慶び申し上げます。

工学部建築学科と建築工学科およびデザイン工学部デザイン工学科の建築・空間デザイン領域の２学科１領域を統合・再編し、３コースのある建築学部建築学科が2017年に誕生致しました。この統合再編を受け、工学部建築学科の卒業生の会『建築会』及び建築工学科の卒業生の会『建友会』は解散し、この二つの卒業生の会の活動を継承し、統合再編された建築学部建築学科の卒業生の会として『芝浦建築会』は2021年12月11日に発足致しました。建築学部建築学科の卒業生は今年３月で第２期生を送り出しています。

本年６月25日開催の第１回『芝浦建築会』定期総会前に旧建築学科の先輩でもある鈴見理事長にお会いする機会を得ることが出来ました。その折に「様々な分野で活躍している卒業生がいる。広く人材を登用し開かれた卒業生の会にし、みんなの力で盛り上げ、建築学部の引き上げにつながる活動をしてもらいたい」と期待を寄せて頂きました。またこの席にて芝浦工業大学校友会全国総会への出席の助言も頂き、校友会全国総会に初めて出席させて頂きました。

『芝浦建築会』の設立総会では会則、役員選出、会の活動方針が定められました。この総会を受け、コロナ感染拡大や集まり易いこともあり、役員会はリモート会議となりました。6月の2021年度第1回定期総会までに6回の役員会を開催し、ホームページを立上げ、事業計画、活動予算、規約改正等を議論致しました。定期総会では１号議案で2021年度事業報告、会計報告がなされ、２号議案で2022年度の事業計画、３号議案で2022年度予算、４号議案で年度の大学人事に合わせて学科主任の副会長、コース代表の幹事の就退任ができるよう規約を改正、5号議案で3月で退任し、4月に就任したコース主任の先生の交代以外の役員は再任することで、全ての議案が可決されました。

定期総会後、『芝浦建築会』の活動の一環としては、来年第２回芝浦建築会定期総会の開催案内も兼ねて、旧建築学科、旧建築工学科、旧デザイン工学科の建築・空間デザイン領域の卒業生及び建築学部建築学科の卒業生に対し、『芝浦建築会』の活動方針や会報の在り方を伝える『芝浦建築会』会報第１号を発行することに致しました。

送付先総数は９千部を超えます。今まで会報を送付しても何も連絡が無い方など、一方通行であってもできる限り多くの卒業生に会報を送付して参りました。今後はホームページの充実も図りこちらでも会報を見て頂けるようにし、次回からは紙ベースが必要である或いは欲しいという会員に限定して送付するためにアンケートを用意致しました。皆様の要望に沿った会報のあり方にする為にも皆様のご回答をお願い致します。

前述しましたように今回私は初めて校友会全国総会に出席させて頂きました。全国の支部から集まり、活躍している多くの諸先輩や後輩と知り合うことができました。多様な分野で活躍している卒業生が『芝浦建築会』に参加し、活動してくれることで活性化し、親近感を持ってもらい、交流が広がることが開かれた卒業生の会に繋がるものと考えております。多様な人材が参加しやすい環境づくりの思いもあり『芝浦建築会』を校友会支部とする手続きも現在進めております。

また学生の就職活動の支援やデザインチャンピオンシップへの支援など学校行事への支援も実施して参ります。来年予定の定期総会後には記念講演や親睦会を予定し、交流を深め『卒業生の拠り所』となる卒業生の会にしていきたいと思っています。発足したばかりの卒業生の会『芝浦建築会』の会員の皆様にはこれからもご参加、ご協力、ご支援をお願い申し上げます。

残念な訃報ですが本年、1957年から2002年まで主に都市計画の分野で教鞭をとられていた石黒哲郎先生と1957年から1991年まで建築計画の分野で教鞭をとられていた吉田秀雄先生が逝去されました。また建築学科、建築工学科に分かれる以前の旧建築学科を1958年に第１期生として卒業された旧建築会第２代会長加藤國男氏も逝去されました。ご冥福をお祈り致します。

最後に初代芝浦建築会会長を過分にも拝命致しました私の自己紹介を兼ねて略歴を掲載させて頂きます。

これからもご指導宜しくお願い申し上げます。

【芝浦建築会会長】

【略　歴】

K&K都市建築設計事務所主宰
1976年芝浦工業大学工学部建築学科卒業
1976年4月に芝浦工業大学建設工学専攻修士課程第1期生として入学
1978年大宇根建築設計事務所に就職し山梨県立文学館、都立夢の島熱帯植物館、山梨県立アイメッセ山梨、港区立麻布子ども中高生プラザなどの設計に携わる
2015年自らの建築設計事務所を主宰、南アルプス市庁舎増築、南アルプス市立広河原山荘新築、山梨県立米倉山研究施設新築などを手掛ける
2001年から建築学科の非常勤講師

理事長寄稿

新生「芝浦建築会」の会報に寄せて

鈴見　健夫（すずみ たけお）
1970年工学部建築学科卒業

芝浦建築会の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
昨年12月に新生「芝浦建築会」がスタート致しました。この度の芝浦建築会「会報第1号」発刊おめでとうございます。新役員の皆様の努力に感謝申し上げます。

建築学科・建築工学科・デザイン工学部建築・空間デザイン領域が統合し建築学部建築学科に改組して昨年第1期生が卒業しました。就職率も97%と順調にスタート致しました。

9月発刊の朝日新聞アエラ・ムックにて就職に強い大学ランキング特集の建設・住宅業界に強い大学の№1にランキングされています。卒業生の社会における活躍が大学のブランド力向上に如何に貢献しているかの好例かと思います。
本学は2022年創立95周年を迎えました。あと5年で100周年を迎えます。
長期ビジョン「Centennial SIT Action」の目標達成に向け教職学協働で前進していきます。

1927年に創立者有元史郎先生が東京高等工商学校を設立し商業学科・土木工学科・建築工学科を開設しスタート致しました。
2年後には商業学科を廃止し東京高等工学校に校名変更し電気工学科を増設しました。また設立翌年には校友会発会式を挙行し自らも校友会員となっています。有元史郎先生は如何に卒業生の連帯が大切かを自ら校友会規則に書き残しています。
創立時からの伝統ある芝浦建築学部もこれからますます発展をし「世界に学び世界に貢献する建築技術者の育成」を目標にグローバル人材を世界の建築界に送り出してほしいと思います。
建築学部卒業生の組織である芝浦建築会も是非大学校友会と一体となり世界中で活躍している卒業生の皆さんが先輩・後輩として助け合える連携・協力組織になっていくことを期待しています。

結びに芝浦建築会の皆様、並びに御家族の皆様のご繁栄、ご健勝を心から祈念申し上げます。

【芝浦工業大学理事長】

副会長挨拶

校友会への参加について

百瀬　和浩（ももせ かずひろ）
1985年工学部建築工学科卒

これまで建築学科「建築会」、建築工学科「建友会」とそれぞれの卒業生の会をもち、長きにわたり活動してまいりました。芝浦工業大学では、2017年に建築系2学科1領域の統合、再編により建築学部建築学科が誕生しました。私たちそれぞれの卒業生の会は、これを機に芝浦工業大学で「建築」を学んだすべての卒業生の会「芝浦建築会」を立ち上げ、活動を始めました。

芝浦工業大学は現在、4学部16学科を有する総合大学に発展し、理工学系の私立大学として確固たる地位を築き、卒業生は各方面で活躍されております。そんな芝浦工業大学には、卒業生の全国組織「校友会」があります。校友会は、7つの委員会をもち、国内外支部48、職域支部25、同好支部22の合計95支部にて母校芝浦工業大学の発展のため日々活動しております。学部や学科の違い、在学期間の違いにより、当時親交が無かった同窓と校友会を通じて知り合い、情報交換のみならず、ビジネス上の結びつきなどが生まれたということを良く耳にします。

私たちが芝浦工業大学で学んだ「建築」は、すべての人間の営み、生活に密着した学問領域であり、その実現のためには多くの他の工学技術の知識が必要です。材料、機械、電気などはもとより、情報、環境など新たな知見を得ることも時代の要請です。

私たち芝浦建築会は、会則に「学術、技術の進歩に寄与する」ことを掲げております。その実現のためには、他の学問領域をおさめた同窓の集う校友会への参加は、本会にとっても誠に意義深いことであると考えております。

スタートを切ったばかりの芝浦建築会ですが、オール芝浦のバックアップを得て活動を加速することは、会の更なる発展の大きな力となります。

【元小金井市議会議員】

芝浦建築会の今後について

川口　英樹（かわぐち ひでき）
1990年工学部建築学科卒

2021年12月11日に建築学部建築学科の卒業生の会として新たに『芝浦建築会』が設立され、翌年6月25日には第1回定期総会が開催されました。

工学部建築工学科の卒業生の会『建友会』の代表と建築学科の卒業生の会『建築会』の代表の双方で何度も協議を重ね、新型コロナの影響もあり、時間を要しましたがようやくスタートが切れました。ここまでご尽力して頂いた方々には大変、感謝申し上げます。

現在、副会長の職と広報について担当させて頂いておりますが、私も2022年3月までは東京で勤務しておりましたが、4月からは香川県高松市に転勤となりました。偶然にも芝浦工大卒業生の先輩や後輩の方に接する機会があり、全国各地から入学された方々が大変多く、卒業後は地元に戻って仕事をされている方がたくさんいることが理由だと再認識しました。香川県内、四国でもそうですので、全国各所で活躍されている卒業生が多数おられることが想像できます。

広報活動としましては、2017年卒の藤田鋭志様にお願いして、仮のHPを立ち上げて頂き、今年年末には正式HPの本始動に向けて、試行錯誤中です。
HPでは『芝浦建築会』の活動内容を正確にお伝えすることは当然ながら、全国に散らばった卒業生参加型のHPにしていくことが『芝浦建築会』の充実と浸透には重要であると思っています。全国の卒業生の近況等の寄稿掲載や、年代別卒業生ごとのミニ同窓会の呼び掛けなど、興味を持って、HPを覗いてもらえるようにしたいと思っています。是非とも、ご賛同頂けますようお願い申し上げます。

卒業生の会となると、決まった人間が仕切って運営しているどちらかというと後ろ向きなイメージがあるかもしれません。『芝浦建築会』については一切そのような運営にならないようにしたいと考えております。しかしながら、働き始めてすぐの20代や30代、40代のメンバーが少ないのも現実です。現状の会議もリモートで行っており、『芝浦建築会』の活性化のために、我こそはと気軽に参加して頂ける卒業生を募集しています。

まずは『芝浦建築会』で検索してください。

よろしくお願いします。

【株式会社藤木工務店四国支店】

旧建築会、旧建友会寄稿

旧建友会と旧建築会の合併協議から芝浦建築会誕生まで

鈴木　泉（すずき いずみ）
1986年工学部建築学科卒

1986年に工学部旧建築学科を卒業しましたが、大学院を、当時旧建築工学科に属していた建築計画（C）研究室（指導教員·三宅理一教授）を専攻した関係で、卒業後約20年間は、旧建築学科の卒業生の会である旧建築会の活動に携わることはありませんでした。2005年に、当時、まだ教員として建築学科に在籍しておられました、故小柳津醇一先生主催の卒業生にも開放されていた勉強会である「円座」に、永年音信が途絶えておりました友人が講師として招かれ、その応援のために駆け付けたのが、私の建築会活動のきっかけでした。

2005年11月に、建築会第4代会長の石井敏明さんの任期2期目の総会にて、建築会の常任幹事として承認され、その3年後、どういう訳か第5代会長就任のお話が舞い込みまして、断る理由も見付からないまま2008年の建築会総会において会長に就任いたしました。以後2期6年間建築会会長としての年月を過ごしました。その最終年度の2014年に、旧建築学科が創立60周年を迎え、学科主催の記念式典を建築会が後援する形で開催いたしましたが、その場を会長として迎えられたことは、私自身の誇りでございます。

その後、枝広英俊先生に第6代会長を引き継ぎ、私自身は、事務局長として建築会常任幹事会に留任しましたが、その時点で、工学部建築学科は、旧建築工学科、及び、旧デザイン工学科建築・空間デザイン領域と合流して新たな建築学部建築学科として生まれ変わることが決定しておりましたので、建築会活動も、新たな局面を迎えざるを得ないことが確実でした。

2017年に建築学部が開設し、2020年に工学部建築学科、及び、建築工学科、デザイン工学科建築・空間デザイン領域の最後の卒業生が輩出され、2021年には、建築学部第1期卒業生が誕生する、という流れが確定しておりましたので、建築学部の卒業生を受け入れるための新たな卒業生の会の設立が期待される中、建築会は、2020年々末をメドに、旧建築工学科の卒業生の会である旧建友会との合併を目指し、その協議会を、2018年から始めました。

建築会の活動は、2017年の総会にて第6代枝広会長の再選が決まり、2020年総会において、建築会の解散総会、及び、新たな卒業生の会の設立総会を開催する予定で、建友会との合併協議会と並行して進めておりましたが、2019年々末より世界的な流行が始まりました新型コロナウィルスの蔓延により2020年内の設立総会開催は断念せざるを得ませんでしたが、昨2021年12月11日に設立総会開催を果たし今日に至っております。

2018年より始まりました、建友会と建築会の合併協議においては、新たな卒業生の会の名称を『芝浦建築会』とすることは満場一致での決定を見ましたが、活動内容である、「総会」「会報の発行」「会費納入方法」「自主企画イベントの開催」等等は、喧々諤々、議論百出で、その発足後も決定してない事項が多々ございますが、建友会・建築会の双方の取り組みを踏襲しつつ、より楽しく有意義な会を構築する所存ですので、旧デザイン工学科建築・空間デザイン領域の卒業生、建築学部の卒業生も加え、今後、皆様方のお力をお借りしたく存じますので、ご指導ご助力ご鞭撻を、よろしくお願いいたします。

【株式会社豊工務店（熊本市）企画部勤務】

旧建友会からの継承

宮谷　敦（みずたに あつし）
1986年工学部建築工学科卒

旧建築工学科の卒業生の会「建友会」の役員を2012年度から務めてきました。このたび新たな組織となり、同卒年である鈴木泉くんと共に事務局を担当します。切刀新会長のもと、役員総意による運営方針を粛々と進めていくことは勿論ですが、そのほかに取り組みたい、新たな芝浦建築会として「今後の展望」があります。

芝浦工大の建築系卒業生たちは、実に多岐にわたる分野で活躍されています。意匠・構造・設備の設計業のみならず、積算や施工、メーカーに従事する卒業生たち、また研究や教育、歴史的建造物の保存修復、建築マスメディア、そして近年の新たな潮流としてはプロジェクト・マネジメントや建築ITコンサルティングなど、各種多様な分野で卒業生たちが活躍されています。

プロフェッショナルかつ優秀な卒業生たちが、当会会員として在籍している。しかし各々は、社会の中で「ひとりの芝浦工大卒業生」として点在している。それを芝浦建築会が、簡単に点と点が「線」で繋がるようにしたい。願わくは「面」として広めたい。そうした展望を抱いています。

同窓会は旧交を温める場であって、そこにビジネスを持ち

込むことは不謹慎だという考え方もあるでしょう。しかし、ここでいう展望とは、単に仕事上の受発注を「卒業生間でマッチングしよう」という安易な考えではありません。芝浦工大で学び、卒業して社会で培った各々の英知を芝浦建築会が繋いでいきたい。そうした「場」でありたい、という展望です。

アイディアに行き詰ったとき、芝浦建築会が発信する会員の近況文集をオンライン散策していたら解決の糸口がつかめた。そんな単純なことでもいいので、会員みなさんにメリットやベネフィットを感じ取ってもらえる「場」を構築したい。1年や2年で構築できる仕組みではありませんが、これは旧建友会役員一同の総意でもありましたので、新たな芝浦建築会に継承していきたい所存です。

【宮谷設計・代表】

（仮題）卒業生の輪[1)]

1）HP上で投稿の輪をつなげます。

プロフェッションを問う

片倉　隆幸（かたくら たかゆき）
1981年工学部建築学科卒

学部学生の時から建築家というプロフェッションに憧れていたのでひたすら建築に没頭しました。当時から日本建築家協会関東甲信越支部住宅部会の会員であった、故みねぎしやすお先生からは住宅部会の話等もお聞きしていました。三井所清典先生には、ガイダンス授業の時に「この学校は一級建築士を育てるところではない。建築家を育てるところだ!」の一言に感銘しました。直接の指導は故石川洋美先生であり、建築家の生き方からすべてを見習うことが多く卒表後も一番長くお世話になってきました。

信州に住まう。そして建築家として仕事ができる喜びを心から感じています。当時非常勤講師であった斎藤孝彦先生には、直接の指導を受けなかったものの、住宅部会の会員であり僕が日本建築家協会関東甲信越支部の住宅部会長を務めた2017年に建築家のプロフェッションをテーマに進めさせていただきお世話になりました。以後、斎藤孝彦さんとプロフェッションを語る会を建築家協会の9人のメンバーで結成、会議を続けています。昨年斎藤孝彦さんは亡くなられましたが、会は引き続き、今までの責務だけの契約書でなくて正当に建築家のプロフェッションを伝えていく合意書を作成することができ、実践しているところでもあります。斎藤さんは常々建築家の日々の行動が、いかに大切かを述べておりました。プロフェッションの五原則[(注)]を今の時代の中でどのように自分なりに捉えて生きていくか？特に住宅を専門に設計する立場として、新しい公共とは何か？を常に考え続けています。住まいの修景も古いものから最近の建築の増改築、新築も周りとの関係が大切です。境界を曖昧にする建築と外部空間、歴史と現在、現在と未来、僕と社会が、心の奥深くで交差する日常です。たまたま自分がその順番を受け継ぎ、表現させていただいているのだという責任感が、心をふるいたたせる。寿命の長い建築を目指して、すべてのものへのいたわりと感謝は続きます。

学生の教育にも関わっています。今我々に必要なことは何か？今社会に必要とされていることは何か？長く追いかけるテーマ、学生の皆さんには、思想を育ててほしいと思います。建築家として何がこの社会でできるのか？問いかけは永遠に続きます。もう一度芝浦の学生と授業を共有してみたい。

（注）プロフェッションの五原則：専門性、公益性、非営利性、個人性、団体性

【片倉 隆幸建築研究室主宰】

仕事及び学生時代の振返りと現況報告

浅見　勝（あさみ まさる）
1976年工学部建築学科卒

私は、大学を卒業後ゼネコンに就職して、30年余りの現場監督とその後の内勤にての管理職として、建築工事の施工管理を行いました。

51歳の時に当時は支店の建築部長になっていたのですが、建設業界は不況となっており、会社も私的整理を行い銀行管理となってしまい、大変悩んだ末に当時工事を発注いただいていた不動産会社に請われ再就職しました。その会社では、分譲マンションの建設現場の品質監理及び施工基準作成等を行いました。59歳の時に母校の研究室の先輩の縁により大学の事業法人であるエスアイテックに入社しました。

大学時代を思い出せば、やはり研究室（枝広研究室）での1年間の事です。研究は、コンクリート骨材の爆裂現象でした。骨材の種類毎の試験体を作り、表面にガスバーナーを当て高温状態になった時の爆裂状況を調べるものでした。真夏でも実験を行い、高熱の実験室より、炎天下の中庭に涼みに出るような辛い実験でした。しかしながら、研究室仲間と研究室内、時には田町通り界隈、時には新宿まで行き、良く飲み歩き楽しい思い出が出来ました。又、卒業した後にも研究室のOB会による忘年会･数年に1度の1泊旅行での宴会にて、多くの先輩・後輩に出会う事が出来ました。

ゼネコン時代でも、土木部・建築部で20名程の卒業生で会を作り、年に1回の忘年会を兼ねた総会を温泉に1泊して行っていました。エスアイテックに入ってからは、校友会及び建築会活動に参加して、多くの校友と出会う事が出来ています。

私生活では、小学生になった孫二人を含めた娘の家族が良く泊まりに来るので、娘夫婦と飲んで語らい、孫と遊ぶ事を大変ながらも楽しみにしています。

最後に、皆様には、今後とも芝浦建築会を含めた校友会活動への参加及び支援をよろしくお願いいたします。

【株式会社エスアイテック　取締役】

石川洋美先生・名誉理事長の最晩年の日々

松寿　章（しょうじゅ あきら）
1978年工学部建築学科卒

石川先生は1958年から2003年まで教鞭や理事をされ、その間、1991年から2003年まで理事長をされました。先生が亡くなられて二年ほどになります。私は先生の教え子でありますとともに自宅が常盤台の先生のご自宅から車で数分のところにあることや共に都内下町育ちであること、先生の趣味のゴルフに誘われることもあったことで大学を出てからも親しくさせていただきました。先生は晩年病院に長く入院されていましたが奇跡的に回復され、その後はご自分が設計された自宅のリビングにベッドを移し中庭に面した気持ちのいい部屋でほぼ終日過ごされていました。近くを車で通った時などわけもなくお訪ねするといつも笑顔でよく来たねと言って奥様はお茶菓子を出され、先生から最近思っていることなどお話を聞かせていただきました。先生は芝浦工業大学の発展を願い、【大学経営】などの雑誌などによく文章を寄稿したりされていました。振り返るといつも芝浦の発展や卒業生の活躍を願っていた方でした。

建築学部ができた時に先生から、「建築会と建友会をまとめた新しいOBの会を作って新しい卒業生を迎えるように準備しなさい。また、その会は校友会にも入った方が良いだろう」などと話されていました。「俺は大学の経営に多くの時間を費やしてしまったけど本当はもっと設計の仕事がしたかったんだ。千葉県知事の友納さんと千葉のこどもの国とかやっていた頃は楽しかったよ」とよく話されていたことを思い出します。豊洲への移転が高校も含めて完成し、今後の発展は次の理事長などの方々に任せることとなり、これからは俺も自分のやりたかったリゾートの設計の仕事もやっていきたいと思っていると話されていました。私が先生に自分の仕事で学校やホテルの設計をやる機会はありますが、なかなか質が高いと思えるものができなくて、と落ち込んでいる話をしましたら、“数うち当たれ”というのがあって、量をこなすうちに質も上がるもんだよとやさしい言葉で答えてくれました。「俺はこれまで自分が信じたままに生きてきた。人からはどう思われてもいいんだ。自分を信じて目の前の仕事に一生懸命向き合えばその先に進めると思ってやってきた。今のままでいいんだ」と励まされたのが先生との最晩年の思い出になりました。最後に、先生のいる部屋から見える庭には雑木林があります。丁寧に剪定されているわけではない分木々は気持ちよく育っていて、先生にとっての卒業生たちみたいだなと思っていました。私は雑木林を見るとのびのび自由に育つ木々の姿を静かに眺めている先生の横顔を思い出します。コロナ禍のため石川先生を送る会ができなかったことは残念でしたが、先生のお人柄の思い出はそれぞれ触れ合った人の胸に特別な想いとして残っていくのだろうと思います。

【株式会社松寿設計コンサルティング一級建築士事務所代表】

2013年傘寿を祝う会にて

2017年12月建築会総会にて（中央石川先生，左田口顧問，右筆者）

学科報告

建築学科の体制、ビジョンなどの近況報告

秋元　孝之（あきもと たかし）
建築学科教授　建築学部長

旧体制の工学部 建築学科、建築工学科、デザイン工学部デザイン工学科 建築・空間デザイン領域の３つの組織が統合するかたちで誕生した「建築学部 建築学科」。2017年度に開設してから早くも５年が経過しました。以前は1,2年生が大宮キャンパスで過ごしていましたが、建築学部は１年生から４年生、そして大学院まで都心の豊洲で一貫して学んでいます。学科のAPコース(先進的プロジェクトデザインコース)、SAコース（空間･建築デザインコース)、UAコース（都市・建築デザインコース）の３つのコースの名称も、本学科を志望する受験生たちに広く認知されてきました。

この間、学科教員のメンバーも大きく入れ変わりました。2021年３月には、2017年度から４年間を初代建築学部長として、新しく創設された学部に生じる様々な課題に取り組んでこられた堀越英嗣先生のほか、藤澤 彰先生、土方勝一郎先生、赤堀 忍先生、伊藤洋子先生が、また2022年３月には南 一誠先生が退職されました。赤堀 忍先生が退職後に急逝されたことは大変残念です。建築学科には現在、38名の専門教員が在籍しておりまして、学生の向上心に応じたきめ細やかな教育を進め、建築をベースとした特色ある人材の育成を目指して、より実践的な問題解決ができる技術力を備えたプロジェクト人材を育成しています。

2022年度に本部棟が新しく建設されて、建築学科の各研究室は本部棟の7、8、9階に引っ越しをしました。ここ3年間はコロナ禍の影響を受けましたが、海外各国で展開する多様なグローバル教育も徐々に復活してきました。アフターコロナのニューノーマル教育研究では、オープンラボを中心とする従来にない教育、研究体制が想定されます。積極的にキャンパスライフの充実化に向けて、本部棟の多様なファシリティを利用する予定です。

本部棟１階のレストラン 銀座シシリアとカフェ セガフレードのデザインは、世界的にも著名な坂茂先生によるものです。紙管を多用した内装や什器のデザインにも触れることが出来ます。また、有元史郎記念校友会館（旧アーキテクチャープラザが猪熊 純先生の設計により改修された）において、建築学部主催の展示会「リカルド・ボフィル追悼回顧展 未来の豊かな記憶を育む空間の創造」を開催し、スペインの世界的建築家であるリカルド･ボフィル氏（1939--2022）の経歴や思想､代表的な設計を紹介する国内初の展示会となりました。

今後も芝浦工業大学100周年となる2027年に向けて、国際化の推進や学部の研究資源（専門・基礎教養）の統合と社会実装、教育の充実化、等に一層注力して参ります。

1階レストラン、カフェ　©Hiroyuki Hirai

新校舎に引っ越しして

志手　一哉（しで かずや）
建築学科教授　UAコース代表

2019年11月６日に着工した新校舎（工事名：芝浦工業大学豊洲第二校舎、建物名：本部棟）は、２年半にわたる工事の末、2022年４月21日に竣工しました。その後、LAN工事や調整期間を経て、８月に研究棟から本部棟への引っ越しを行いました。引っ越し前には什器が入る前の状態を残しておくべく建築学部が研究室を構える7～9階について3次元レーザースキャナで点群データを自主的に撮影しました。

建築学部の新しい空間は、コースの別に関係なく分野ごとに研究室が隣接し、各研究室は思い思いのデザインで什器を配置しています。最大の特徴は建物の周囲に配置された研究室に囲まれたオープンスペース（オープンラボ）の存在です。この空間には、谷口大造先生指導の下、学生達の協力で制作された什器が置かれ、これまでのアトリエに代わるスペースとして利用されます｡オープンラボの先にはラウンジがあり、学生が自由に利用できるほか、レクチャーや講評会のスペースとして使われています｡研究室やゼミ室もガラス張りです。建築学部の活動が細部まで丸見えになり、教員も刺激を受けています。後期に入り、本部棟の運用が手探りながらも本格稼働しました。人間も空間も時間と共になじんでいくのでは

ないかと思います。

本部棟の１階には２つの店舗が入居しています。レストラン「銀座シシリア」とカフェ「Segafredo」です。これらは坂茂さん監修の下で岡崎瑠美先生も参加してデザインがなされ、外壁を開け放つヨーロッパ的な雰囲気が感じられる空間になっています。2022年9月21日にオープンし、近隣の方々の利用も多く、キャンパスに「にぎわい」が生まれています。これまでの豊洲キャンパスを無かったことにするかのように雰囲気が一新され、建築の力の偉大さを改めて感じることができます。夜にはアルコールもたしなむことができ、教員同士や教員と学生などによる学術的な語らいが一層進むに違いありません。

引っ越し前の点群データ

利用し始めたオープンラボ

１階ピロティの空間（夜景）

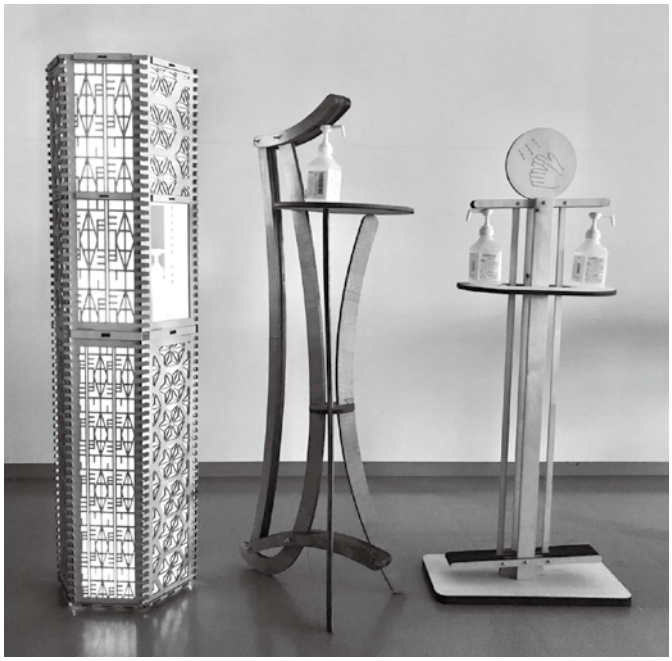
PBLとコロナ禍

山代　悟（やましろ さとる）
建築学科教授　APコース代表

私は建築学部建築学科が設立にともなって全く新しく立ち上げられたAP（先進的プロジェクトデザイン）コースを担当しています。現在大学ではPBL（プロジェクト･ベースド･ラーニング）と呼ばれる、実社会の課題に触れ、その背景や解決を考える中で自らの学びを立体化する機会が重視されています。私が主に担当するAPコースは特にこのPBLを必修化しており、定員30名という小所帯であることを生かして「国内プロジェクト」という授業で夏や春の休業の時期を利用して、合宿形式で熊本や気仙沼などの被災地の仮設住宅を訪問して地域の現状を学ぶと同時に仮設暮らしの改善を考えたり、南房総に出かけて都心に近くとも人口減少が続く地方の現状やそこで地方再生に取り組む人々その活動を学ぶ授業を行なっています。

そのような中、2020年春よりコロナ禍が始まり、大学の教育、とりわけPBL授業は大きな影響を受けました。大人数で、県境や国境を超え、飲食や宿泊をともない、地域の人々（高齢者も多く含まれます）との交流をしてきたPBL授業の実施は非常に困難で、2020年度と2021年度は、完全オンラインでの実施となりました。そのような中でも少しでも充実したかたちで他地域の人々の取り組みを実感できるように、事前調査をもとに熊本の被災地で活動された人々に長時間のオンラインインタビューを実施したり、復興へ向けての一助としてアルコールスタンドや照明を豊洲でレーザーカッターなどで工作し、現地に送り組み立て使ってもらうというような岡野道子准教授による取り組みも行われました。本年度2022年度は、ワクチン接種率の高まりや安全性確保への対策も整理されてきた中で、参加者に抗原検査を行なってもらう条件で、宿泊を伴うPBLも再開することができました。夏には南房総・館山市富崎地区におけるPBLを２泊３日の合宿をともなう形で実施することができました。コロナ禍におけるオンライン技術の活用には大きな学びがあり、良い点はこれからも使っていきたいと思いますが、学生たちが初めての地域に出かけ、地域の空間だけでなく、そこに暮らす人々の姿や顔を見て自らの学びが何に生かすことができるのかを考え、学びとそのモチベーションを深めていく様子を見て、PBLの重要性を自分自身再確認することができました。

PBL 講義風景



復興支援のアルコールスタンドと照明器具

地下体育館

2021年度の学科の近況と学生の活躍

郷田　修身（ごうだ おさみ）
1991年工学部建築学科卒
建築学科教授　SAコース代表

2021年度を振り返って見ると、完全なオンライン授業であった2020年度とは異なり、対面授業とのハイブリッドであったり、学外活動が徐々に増えてきたりと、より多様な教育と研究のあり方が求められました。そのような中で4月には、256名の新入生を迎え入れ、そして2022年3月には、建築学科の第2代目の卒業生235名が、巣立っていきました。卒業式は、2022年3月17日に東京国際フォーラムで実施され、建築学科の学生はその後、豊洲キャンパスのアーキテクチャープラザに戻り、卒業研究、学業成績の優秀者の表彰を行いました。この式には、芝浦建築会会長の切刀強会長にもご出席頂き、祝辞を頂戴致しました。学科全体での謝恩会はまだ開催できませんでしたが、研究室単位では小さな宴を開いたところもあったようです。コミュニケーションという意味では、早くパンデミック前の状態に戻ることを願うばかりです。

2021年度の卒業生の学業成績優秀者は、以下の通りです。また、卒業研究優秀各賞は表1の通りです。

学業成績最優秀賞・総代　岩澤美和子
学業成績優秀賞・有元賞　小暮映里奈　山田知佳　鈴木大祐
学業成績優秀賞賞名　塚越果央　渡部翔伍　里吉佑麻　嶋田英恵　穂積モモ　水上聖斗　宮澤岳希　木村　亘　鈴木実緒　長門柚里香

学部生、大学院生とも学内だけでなく学外での活躍もめざましいものがあります。一部となりますが、表2に掲載し、学科の近況報告と致します。

最後になりましたが、本学に2005年に着任され、工学部建築学科、建築学部建築学科で教育研究にご尽力頂いた南一誠先生が2021年度末で定年退職されました。17年にわたる建築学科へのご貢献に感謝申し上げます。2022年4月からは後任の小菅瑠香先生が着任されています。

表1　卒業研究優秀各賞

卒業設計最優秀賞　三浦元秀記念賞		
松浦　直生	前田研究室	短冊農業をひらく
卒業設計優秀賞		
土屋 季穂	郷田研究室	別荘地における保養拠点の転換 - アートがつなぐ人と人
秋本 寛太	原田研究室	ざらざらな世界
安藤 尚哉	原田研究室	転生するシンボル - スポリア的操作による都市文化の継承と更新 -
川合 里歩	郷田研究室	すみひらき - 都市の木密地域における再開発と改善に関する提案 -
漆原 史織	小塙研究室	こどもホスピスの森　- 人を迎える場の創出で認識を変える -
小川 裕司	西沢研究室	銀幕が映る街 - 上映空間の再考とフィルムアーカイブ拠点計画 -
齊藤 真生	岡崎研究室	社会の境界 -DV 被害者支援を進展させる商業施設複合型シェルター
佐藤 夏野	岡野研究室	海と生きる　- 気仙沼における番屋避難路の提案 -
卒業設計奨励賞		
塚越 果央	谷口研究室	スキマ再生　- 渋谷の排除アート化を阻止するスキマ内包型商業建築の提案 -
田中 みなみ	谷口研究室	ときの差分 - 下北的ズレ空間の提案 -
中村 凜緒	原田研究室	表参道 - 鏡像的操作による都市の多次元化 -
東 満里奈	西沢研究室	旧葛西海岸堤防再編計画
鈴木 雄大	山代研究室	伝承で育む - イノベーションフィールドがもたらす共助と創造 -
高野 成晨	清水研究室	余白の建築 - 渋谷に根付く公共空間 -
卒業論文優秀賞		
上田 そら	蟹澤研究室	木材流通の実態把握と国産材活用方策に関する研究
大井 望未	清水研究室	高架下における商業空間に関する研究　- 上野・アメ横エリアを事例として -
下田 蒼	山代研究室	二地域居住推進手法における課題と今後の可能性　- 全国二地域居住等促進協議会員対象アンケートに基づいて -
関 ひとみ	椛山研究室	極度に劣化した RC 造建築物の構造性能評価　- 軍艦島 3 号棟の構造性能と耐震補強方法の提案 -
三田 伶海	志村研究室	子どもの来訪を促進する商店街の要因に関する研究 - 大島サンロード中の橋商店街を事例として -
柴田 万耶	對馬研究室	ABW 導入オフィスにおける執務室特性毎の室内環境選択に関する研究
柴山 夕香	古賀研究室	キャスター走行による床スラブの摩耗に関する研究
鈴木 和音	篠崎研究室	建築の言説分析による建築批評体系の構築
千賀 理貴	古賀研究室	アスベスト含有仕上塗材外壁の解体方法の研究
奈良部 茉依	秋元研究室	庁舎建物におけるオンデマンド環境制御システムに関する研究
穂積 モモ	南研究室	島根県の北前船寄港地、鷺浦の空間構造
山根 佑介	岡崎研究室	余市町における石蔵に関する調査
山脇 潤	栗島研究室	コロナ禍前後の住宅での「接点空間」の研究　- ポストコロナにおける「地域へのつながり」を意図した住宅の設計思考 -
岩澤 美和子	小澤研究室	斜面滑り摩擦を考慮したモーメント抵抗接合の非線形解析
金山 俊平	濱崎研究室	コンクリート中の鉄筋腐食に対する非破壊検査の手法 -3D スキャナを用いた方法 -
小暮 映里奈	小柏研究室	群馬県沼田市の地割変遷に関する研究　- 本町通り付近の蔵を対象として -
竹内 諒	西村研究室	フィルタのピンホールに関する研究　-ETFL モデルと捕集機構の比較 -
谷口 ありさ	佐藤（宏）研究室	立地適正化計画における生活圏からみた拠点設定の妥当性に関する研究
長門 柚里香	桑田研究室	江東区におけるマンション立地の特徴と影響
平田 耕大	村上研究室	豊洲埠頭地区のスマートネットワークの高効率化に関する研究　- 高効率コージェネレーションの運転計画の適正検証と新ロジックの検討 -
渡邉 圭太郎	志手研究室	IFC の属性情報を用いた建築確認自動化の可能性に関する研究　- 建築部材の防耐火適合判定を対象として -

表2　学生の学外での活躍

論文など			
今村 真樹子	日本建築学会大会	若手優秀発表賞	都市部における住民自治組織の役割と意義に関する研究
大津 一輝	日本建築学会大会	若手優秀発表賞	日本と海外における well-being 認証システムの特性に関する研究～ CASBEE- ウェルネスオフィスと WELL Building Standard の比較から～
庄司 栄介	日本建築学会大会	若手優秀発表賞	東南アジアメガシティにおけるスラムの現代的様態に関する研究 その 1　最貧困層による商店経営の実態
高橋 洸	日本建築学会大会	若手優秀発表賞	セマンティックウェブによる建物データのシームレスな交換のための研究
西山 健太郎 山根 佑介	16th South East Asian Technical University Consortium [SEATUC] 2022, Innovative Poster Award	Bronze prize (Track3: Informatics)	Title"3D Digital Archiving of Masory Warehouses: Case of Yoichi, Hokkaido"
川村 創士	日本建築材料協会	優秀学生賞	二酸化炭素透過度を用いた表面含浸材の中性化抑制効果の評価方法に関する検討
伊藤 駆	日本建築仕上学会	修士論文賞	外装用石材の耐凍害性の評価および凍害予防方法の検討
藤田 純輝	日本建築仕上学会	卒業研究賞	浸透性吸水防止材の性能評価および促進劣化方法の検討
村上 斉志郎	日本建築学会大会	若手優秀発表賞	COVID-19 による働き方や暮らし方の変化が建築・都市にもたらす影響に関する研究
山﨑 稜汰	日本建築学会大会	若手優秀発表賞	戸建て住宅の電力消費量における COVID-19 による新しい生活様式の影響評価
設計コンペなど			
安原 樹 梶原 優希	木の家設計グランプリ 2021	優秀賞 / 竹原義二賞	谷中のかぞぐるま～家族を他人化するニワとロジ～
安藤 尚哉	せんだいデザインリーグ 2022	来場者票最優秀賞	タイトル「転生するシンボル - スポリア的操作による都市文化の継承と更新 -」
	赤れんが卒業設計展 2022	最優秀賞	タイトル「転生するシンボル - スポリア的操作による都市文化の継承と更新 -」
関 健太	愛知建築士会名古屋北支部 第12回建築コンクール	佳作	離れ　た建築
	第19 回主張する「みせ」学生デザインコンペ	優秀賞	ミセるミチ
吉本 有佑	LUCHTA CHALLENGE2021	学生賞	タイトル「都市の狭間に佇むカフェ」
山田 知佳	赤れんが卒業設計展 2022	101 選	水資源の再解釈による地方都市の新たな可能性
漆原 史織	木の家設計グランプリ 2021	ひだまりほーむ(株式会社鷲見製材)賞	音楽堂に住む
千葉 瑞樹	第19回 主張する「みせ」学生デザインコンペ	優秀賞	ミセるミチ
大久保 尚人	三栄建築設計住宅競技 2021	最優秀賞	タイトル「窓辺の詩学」
	第5回Woodyコンテスト	優秀賞	タイトル「大路の土間｜小路の縁側」
谷井 美優	歴史的空間再編コンペティション 2021	グランプリ	タイトル『つながりを育む - 防災ファイバーによる木造密集地域の景観保存 -』
中根 一真 渡邉 剛成	第19回 主張する「みせ」学生デザインコンペ	入賞	みえない奥
塚越 果央	北海道卒業設計合同講評会	特別賞	スキマ再生
	木の家設計グランプリ 2021	優秀賞	私とあなたと花と
天野 稜	第22回埼玉県卒業設計コンクール	さいたま住宅検査センター賞	草加市役所コンバージョン計画
東 龍太郎	第44回 学生設計優秀作品展ー建築・都市・環境ー	レモン賞、審査員長賞	タイトル「"me"（め）」
波多 剛広	第56回セントラル硝子国際建築設計競技	佳作	階段と徴候
鈴木 大祐	2040 年のライフスタイルが紡ぐまちの姿アイデアコンペ	岸本千佳賞	雨奇晴好
	せんだいデザインリーグ 2022	来場者票優秀賞	都市ダム建築
齊藤 彬人	日本財団福祉のデザイン学生コンペ 2021	入賞	葡萄畑のある暮らし
	木の家設計グランプリ 2021	ビルダー賞	新参者と大根櫓の家

退職のご挨拶と御礼

南　一誠（みなみ かずのぶ）
芝浦工業大学　名誉教授

2005年4月から2022年3月まで、長い間、大変お世話になり、ありがとうございました。三井所清典先生の後、建築構法系の科目や設計演習、製図の科目などを担当させていただきました。本学に入職するまでは24年間、郵政省建築部や建設省官庁営繕部などで公共建築の仕事をしておりましたので、学生たちには実社会で役に立つ基礎的な技術と知識を身に着けていただけるよう、心がけてきたつもりです。17年間に、191名の学部生の卒業研究、48名の大学院生の修士研究、延べ10名の正規留学生の研究指導も担当し、毎日、充実した日々を送ることができました。研究室の学生の皆さんと取り組んできた研究に対して、2022年度日本建築学会賞（論文）を受賞することができました。素晴らしい教育・研究環境の中で仕事をさせていただけたことに、心から御礼申し上げます。

2008年3月から2015年3月までは学長補佐も経験させていただきました。柘植綾夫先生が学長をされていた時、東京ベイエリア産学官連携シンポジウムを20回、担当させていただきましたが、学長の産学官連携に対する熱い思いを感じました。村上雅人先生が学長をされていた時、本学としても本格的にグローバル化に取り組むことになり、大学院建設工学専攻主任も担当させていただいていたので、大学院の英語科目を増やそうと努力しました。私の研究室に在籍していた中国からの留学生の叔父様が中国の大学の建築学部長をしておられることが契機となり、コロナ禍までは毎年、中国の大学と送り出しと受け入れを行ってきました。協定相手校が所在する安徽省黄山の周辺には、環境共生的な集落や美しい木彫の伝統建築が数多く残されており、PBLの後に学生たちと訪問するのが楽しみでした。

五十嵐久也理事長からは就任された直後に、小生の母校のマサチューセッツ工科大学（MIT）を訪問したいとのお話をいただき、同行案内させていただきました。MITを卒業して30数年も経過しているにもかかわらず、MITの幹部職員が勢ぞろいで充実した説明をしてくれたことを記憶しています。

教員として何よりの喜びは、卒業後に彼ら彼女らが、溌溂として社会で活躍してくれている姿に接することです。これからも彼ら彼女との交流を大切にしていきたいと考えています。長年に渡り、本当にありがとうございました。

着任のご挨拶

小菅　瑠香（こすげ るか）
建築学科准教授　建築計画研究室

2022年の春に准教授として着任し、建築計画科目を担当しております。長い伝統のある芝浦工業大学で、意欲あふれる先生方や学生たちと一緒に研究や教育に携われる環境をいただき、大変光栄に存じます。

大学院は東京大学の長澤泰研究室にて、医療福祉施設の建築計画を学びました。その後、設計事務所、厚労省管轄の研究所や大学にて、特にこれまで公共施設の設計や計画に従事してまいりました。2002年から2003年、2008年から2009年の2回に亘って、アメリカの大学院にて、医療建築コースの設計スタジオの指導補助をしつつ、研究活動を続けておりました。当時の記憶として、授業中に学生から積極的な質問が多く飛び出して驚いたことと、ＤＩＹの国ならではのフィールドにおけるPBL（課題解決型学習）が盛んにおこなわれていたことが鮮明です。

より一層のグローバル化を目指して本学が英語開講科目を増やす中で、私も後期からは設計授業や講義を担当させていただいておりますが、留学生に交じって英語で発表を頑張っている日本人学生を見るととても嬉しく思います。新型コロナウイルス感染症の蔓延で一時は海外渡航も難しくなっておりましたが、いつまで続くか分からないこの状況の中でオンラインツールなども活用しつつ、一人でも多くの学生が世界に目を向け、足を踏み出してくれる機会を作れるよう、努めていきたいと考えております。

また大学の座学では「建築計画」のほかに「ユニバーサル施設計画論」という新しい科目を担当させていただいております。施設計画について、ユニバーサルデザインとサスティナブルデザインの両面からアプローチしています。少子高齢化がますます進行し、生産労働人口が不足する時代を牽引していかねばならない学生たちに、あらゆる人々が少しでも生きやすい社会の在り方を真剣に議論してほしいと思っています。

2022年度 旧建築会会費納入者

2022年の建築会会費（2,000円／年）納入者の卒業年と氏名を下記に紹介させて頂きます。納入して頂いた皆様には厚くお礼申し上げます。建築会の益々の活性化・発展等のために有効に使わせて頂く所存でおりますが、今後とも更なるご協力の程を宜しくお願い致します。（役員・常任幹事一同）

元教員　塘直樹
元教員　相田武文
元教員　南一誠
元教員　古屋浩
昭25　岩瀬定保
昭30　澁木昭一
昭33　勢〆和
昭34　藤内哲雄
昭34　阿部善司
昭34　岡本嘉行
昭36　横山達男
昭36　吉田寿郎
昭36　生沼善左
昭36　岡野嘉邦
昭36　刈谷靖彦
昭36　清田清司
昭36　佐藤勝利
昭36　新村浩
昭37　柳澤政男
昭37　笠原彰夫
昭37　北山松幸
昭37　小林功
昭37　田中信也
昭37　土井国昭
昭38　松下壽郎
昭38　村田保
昭38　室俊彦
昭38　池谷良昭
昭38　大槻利次
昭39　東郷豊
昭39　冨永平三郎
昭39　柴村尭海
昭39　田口継道
昭39　西村捷之
昭39　廣田敏郎
昭39　藤沢好一
昭39　村杉隆夫
昭39　安森久亮
昭39　山岸栄三
昭40　石井敏明
昭40　今井紘一
昭40　片山久美子
昭40　北川良和
昭40　谷端順一
昭40　永谷精孝

昭40　中村脩
昭40　矢口弘康
昭41　吉田勇
昭41　石鍋元章
昭41　大蔵久
昭41　勝又徳蔵
昭41　松本花子
昭42　吉田祥子
昭42　阿部泰資
昭42　有坂政子
昭42　五十嵐剛
昭42　池崎博二
昭42　押井秀夫
昭42　川瀬正光
昭42　木村年男
昭42　菅原光彌
昭42　豊岡幸夫
昭42　仲田秀啓
昭42　仁木勝清
昭43　宮内古勝
昭43　山下健一
昭43　山田一竹
昭43　大塚家光
昭43　清水龍三
昭43　鈴木祥弘
昭43　曽根稔
昭44　峰村一彦
昭44　山崎利紀
昭44　入野文夫
昭44　岡本博司
昭44　勝部民男
昭44　狩野三雄
昭44　北川亨
昭44　後藤正二郎
昭44　齊藤修
昭44　重原禅
昭44　染谷清
昭44　鶴巻智信
昭45　西貝典也
昭45　平沢勇
昭45　保科俊彦
昭45　前田高史
昭45　村上一憲
昭45　米澤稔
昭45　樫原康文

昭45　小林昌彦
昭45　佐藤元一
昭45　鈴木千登世
昭45　鈴見健夫
昭45　成毛弘治
昭46　萩原陽一
昭46　森俊偉
昭46　山本勇
昭46　岩本俊郎
昭46　内田守
昭46　枝広英俊
昭46　大根弘行
昭46　岡田和明
昭46　角野和明
昭46　亀崎寛
昭46　唐沢勉
昭46　河合誠
昭46　河野賢三
昭46　久米勝
昭46　古藤充昭
昭46　小堀雅彦
昭46　須田昌孝
昭46　辻村建
昭46　中村周一郎
昭46　広瀬文宣
昭46　福田俊次
昭46　藤井和俊
昭46　矢代誠
昭46　山田洋
昭46　山中真
昭46　和田伸一
昭47　渡部精
昭47　猪原幸生
昭47　大寺孝幸
昭47　高瀬茂
昭47　春日貞秋
昭47　佐藤文俊
昭47　猿渡一雅
昭47　玉井賢一
昭47　直海秀紀
昭47　長井義明
昭47　西村修
昭47　廣瀬明久
昭47　深沢潤一
昭47　不破隆夫

昭47　増山栄
昭47　松田悦朗
昭47　松塚昇
昭47　三原一成
昭47　宮川義英
昭47　宮嶋正晴
昭47　村石俊郎
昭48　森川礼
昭48　山梨博
昭48　石山則広
昭48　加藤泰久
昭48　亀甲将実
昭48　久須美敏行
昭49　鈴木秀幸
昭49　塚田栄一
昭49　戸山芳一
昭49　岩瀬繁
昭49　牛山信康
昭49　枝広秀子
昭49　加治喜久夫
昭49　柏本保
昭49　河村和明
昭49　川本勝一
昭49　斎藤教男
昭49　長沼寛
昭49　山口登司
昭50　春日義則
昭50　山本仁
昭51　山崎眞
昭51　浅見勝
昭51　阿部澄夫
昭51　伊東昭博
昭51　功刀強
昭52　小林一生
昭52　齋藤喜義
昭52　菅原紀昭
昭52　千葉英彦
昭52　徳永一雅
昭52　早川金光
昭52　金岡敏
昭52　篠崎次男
昭52　柴田満
昭52　須賀研太郎
昭52　竹原基好
昭52　中村二郎

昭52　西村一孝
昭53　萩野正雄
昭53　牧内昭憲
昭53　三浦保
昭53　伊藤清
昭53　小川邦博
昭53　清川健司
昭53　田浦英典
昭54　高橋延幸
昭54　月居利久
昭54　富安伸好
昭54　山田巌
昭54　弓達和彦
昭54　今村司
昭54　笠井義文
昭54　吉見光宣
昭55　杉山政市
昭55　多田哲則
昭55　常盤木隆
昭55　釜井重一
昭55　鈴木宏始
昭56　美原陽太郎
昭56　竹内孝
昭57　村田優
昭57　大崎閲男
昭57　片山淳夫
昭57　神尾雅陽
昭58　宮下俐
昭58　千須和正夫
昭59　森大助
昭59　大木健逸
昭60　久本雅義
昭60　伊藤政人
昭60　相模淳一
昭61　千葉実
昭61　平林重徳
昭61　片平義隆
昭61　小山滋
昭62　鈴木泉
昭62　田中和広
昭63　西浜清則
昭63　大路泰司
平1　鶴浩一郎
平1　飯嶋直子
平1　石原健一

平1　枝光稔
平1　河井慶太
平1　木村慶太
平1　進藤浩幸
平1　清田文弘
平1　高山直明
平1　竹中明彦
平2　藤田武志
平2　山下浩司
平2　砂野公一
平3　川口英樹
平3　栗原幸樹
平3　鈴木剛
平4　古川達也
平4　吉本竜也
平4　石久保猛
平6　松田佑基子
平7　鈴木宏治
平9　青木哲也
平9　安達晋悟
平10　笹本昌代
平10　戸田悟史
平10　渡邉将宏
平10　秋山達哉
平10　関裕紀子
平10　槙島健太郎
平11　庵麻由
平11　古市隆志
平12　中村真史
平13　山岸敬広
平14　正林一紀
平18　守屋仁
平20　吉澤裕二
平21　有馬萌子
平21　岩井百希恵
平22　徳田直之
平22　白岩伸介
平23　新堀達也
平23　澤原拡
平24　長谷部美紅
平26　塩飽紘彰
平28　山田幸
平28　松永彬利
平30　寺田有里

2022年度 旧建築会寄付者

寄付金を頂戴した皆様を下記にご紹介させて頂きます。厚くお礼申し上げます。

元教員
塘直樹

昭25
岩瀬定保

昭53
澁木昭一

昭34
吉田寿郎

横山達男

昭36
阿部善司

岡野嘉邦

刈谷靖彦

清田清司

佐藤勝利

昭37
新村浩

小林功

村田保

北山松幸

笠原彰夫

田中信也

昭38
室俊彦

池谷良昭

冨永平三郎

東郷豊

昭39
大槻利次

村杉隆夫

山岸栄三

柴村尭海

西村捷之

昭40
廣田敏郎

石井敏明

永谷精孝

昭41
中村脩

吉田勇

大蔵久

昭42
吉田祥子

石鍋元章

阿部泰資

押井秀夫

木村年男

菅原光彌

仲田秀啓

宮内古勝

有坂政子

池崎博二

山田一竹

豊岡幸夫

仁木勝清

昭43
清水龍三

昭43
山崎利紀

大塚家光

昭44
曽根稔

保科俊彦

村上一憲

米澤稔

入野文夫

勝部民男

狩野三雄

北川亨

染谷清

鶴巻智信

平沢勇

後藤正二郎

昭45
西貝典也

樫原康文

小林昌彦

鈴木千登世

山本勇

昭46
佐藤元一

鈴見健夫

内田守

岡田和明

角野和明

亀崎寛

河合誠

須田昌孝

辻村建

広瀬文宣

藤井和俊

山田洋

渡部精

大根弘行

福田俊次

矢代誠

岩本俊郎

和田伸一

枝広英俊

昭47
山中真

猿渡一雅

玉井賢一

三原一成

宮川義英

村石俊郎

大寺孝幸

昭47
高瀬茂

春日貞秋

佐藤文俊

西村修

深沢潤一

不破隆夫

宮嶋正晴

松塚昇

直海秀紀

森川礼

増山栄

昭48
加藤泰久

鈴木秀幸

昭49
戸山芳一

河村和明

斎藤教男

春日義則

牛山信康

柏本保

山口登司

昭50
山本仁

昭51
阿部澄夫

伊東昭博

小林一生

昭52
齋藤喜義

柴田満

西村一孝

篠崎次男

竹原基好

金岡敏

中村二郎

昭53
牧内昭憲

高橋延幸

月居利久

伊藤清

清川健司

昭54
山田巌

杉山政市

常盤木隆

昭55
鈴木宏始

釜井重一

昭56
竹内孝

昭57
宮下俐

片山淳夫

神尾雅陽

昭58
千須和正夫

昭59
大木健逸

昭60
久本雅義

伊藤政人

相模淳一

平林重徳

千葉実

昭61
鈴木泉

昭63
大路泰司

平1
鶴浩一郎

飯嶋直子

石原健一

河井慶太

進藤浩幸

藤田武志

枝光稔

清田文弘

平2
栗原幸樹

平3
鈴木剛

平4
古川達也

石久保猛

平6
松田佑基子

平9
青木哲也

安達晋悟

戸田悟史

渡邊将宏

平10
槙島健太郎

平11
古市隆志

平12
中村真史

平14
正林一紀

平21
徳田直之

岩井百希恵

有馬萌子

平22
白岩伸介

平23
澤原拡

平26
塩飽紘彰

平28
松永彬利

平30
寺田有里

会報のあり方と会費納入のお願い

工学部旧建築学科の卒業生の会である旧建築会では、1985年以来2021年まで、計37回に渡り建築会会報を発行して参りました。建築会では、発行当初より、卒業全会員に会報を発送する方針を貫き、2021年には、住所が判明している卒業生4,000有余名に会報を発送いたしましたが、年々増加する一方の会員数に対し、その発送料が、会の財源を圧迫していたことも事実であります。

一方、工学部旧建築工学科の卒業生の会である旧建友会では、1988年より建友会会誌（2013年からは「建友会誌」）を発行しておりました。旧建築会同様に、住所が有効な卒業生3,000有余名に発送しておりましたが、年々、その発送料が会の財源を圧迫してきた関係により、2013年からは、会費納入を頂いた会員のみに会誌を、その他の方々にはダイジェスト版（抜粋）を発送する方針に切り替え、2020年まで、計53回の会誌を発行して参りました。

2021年12月11日の設立総会をもって旧建築会と旧建友会が合流しましたが、その合併協議会の段階から、今後の活動の骨格である会報のあり方について議論を重ねましたが、今現在、芝浦建築会の活動資金が100万円余りしか手元にないことから、今後の会報の発送については全卒業生に発送するのは現実的ではないため、今回の第1回会報のみ全会員への発送とさせて頂く事としました。

なお、2023年以降の会報の発行につきましては、会費納入いただいた会員の方のみに会報を発送することとさせていただきたく思いますが、その是非について、ご意見ある方は、同封のハガキにて、ご意見を寄せていただければ幸いです。

会員の皆様からの会費納入が、当会の活動の骨格となりますので、ご理解の上ご協力賜りたく、よろしくお願いします。

会計報告

2021年度　芝浦建築会会計報告

2022.3.31現在

収入

繰越金		
建築会（建築学科）　残預金		1,320,836
建友会（建築工学科）残預金		607,081
	計	1,927,917

支出

ゆうちょ銀行印字サービス料		2,020
	計	2,020
次期繰越金		**¥1,925,897**

2022年度　芝浦建築会収支予算案

収入

繰越金		1,925,897
芝浦建築会費　500 人× 3,000 円		1,500,000
	計	3,425,897

支出

会報	印刷 8,500 部、封筒 7,700 枚	700,000
同上発送料	7,700 通	700,000
同上デザイン	構成料	110,000
旧建友会会報発送料	650 部	300,000
学校行事支援	デザインチャンピオンシップ	100,000
在学生の顕彰	優秀者への記念品等の授与	150,000
卒業パーティ	出席と祝辞	10,000
事務費	ゆうちょ銀行印字サービス料	2,020
	払込手数料	3,000
	HP 維持費	20,000
雑費	前年度立替費等	60,000
予備費	講座、レクチャー等	200,000
	計	2,355,020
次期繰越金		**¥1,070,877**

2022年度芝浦建築会　役員名簿

会　　長：　切刀　強1976卒
副 会 長：　百瀬和浩1985卒　　川口英樹1990卒　　秋元孝之（建築学部長）
事 務 局：　宮谷　敦1986卒　　鈴木　泉1986卒
会　　計：　郷田修身1991卒（幹事兼務）　　染谷　清1969卒
会計監査：　辻村　建1971卒　　加治喜久夫1974卒
幹　　事：　浅見　勝1976卒　　松寿　章1978卒　　鶴浩一郎1988卒　　下田恭子1997卒
水谷晃啓2007卒　　長谷部美紅2012卒　　藤田鋭志2017卒
郷田修身（SAコース代表・会計兼務）　　志手一哉（UAコース代表）　　山代　悟（APコース代表）
顧　　問：　田口継道1964卒　　枝広英俊1971卒

編集後記

この度、念願の会報第一号の発行となりました。会報の発行媒体については今後の議論にはなると思いますが、会員への情報発信、会員からの情報提供等、会員のための会報に繋がればと思う次第です。お手元に届くタイミングで、HPに会報掲載させて頂きます。今回、寄稿をした頂いた方々、編集協力して頂いた いとうたけひこ様に感謝致します。

●お問い合わせ ： info@sit-archi.com
●発行者 ： 芝浦工業大学　芝浦建築会　〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5